

令和8年度 ボランティア団体意見交換会 意見とりまとめ

令和8年6月27日（土）

班	発表者	対策	意見発表	センター意見
1	DIYdeSDGs 濱崎さん	安全管理	企業では現場作業前に危険予知RKYのチェックを行っている。センターから虎の巻のようなもの(怪我などの災害事例・チェーンソーのメンテ方法・作業前の安全チェックシート)を出してもらえないか。	安全管理について ＞作業前チェックシートは作成しており、皆さんにお配りしていますのでご活用ください。 センターでは森林ボランティア団体の皆さんに向けて伐木などの技術研修会も開催していますのでご参加ください。
		活動の継続	高齢者が多く人数が少ない事の対策としてWOODAYでは休憩を多めにとり無理をしない。ラジオ体操をして機材のチェックをしてから作業にはいる。作業後の機械・道具類のメンテは自身で行うと安全意識が高まる。	
		会員の減少	今はベテラン勢がまだ現役なので良いが、この技術を継承していく為に地元で根差す人の確保が重要。急勾配のかかり木処理など経験を積んで学んでもらえるように工夫を。一般の方の参加は保険の問題もあり難しいところ。	
		安全管理	チェーンソーを扱うのであれば最低限の管理・扱い方・目立ての仕方などの講習を受講し安全の知識を学ぶ事が必要だと思う。	
2	森いくぞう会 竹添さん	活動の継続	活動費の捻出が問題だと思うので3年間は多面的事業の交付金で活動し、そのあとは助成金を受けられるシステムがあれば良いと思う。その際に手続きが煩雑でないと使いやすい。	活動の継続について ＞多面的事業の交付金は同じ場所では3年間のみ有効だがそれ以降に使える県の助成金などの検討をお願いしたい(チェーンソーの油代とかガソリン代など必要経費など活動維持費として)。 ＞企業との連携も進めるべきだし働きかけていきたい。また、企業のボランティア活動に参加すると何らかの対価が得られるといい。 会員の減少について ＞初心者には蛇やマダニ等の危険な話ばかりすると山に入る意欲をなくしてしまうので森林浴効果やボランティア活動が体にも良い影響があるなどポジティブな話が必要。
		会員の減少	お年を召した会員さんについては高齢になっても出来る作業をしてもらい継続に繋げる。会員獲得には、いかに新しい人に参加してもらうかが大事だと思うので山に入るのは気をつければ安全に作業が出来るという事を体験と共に教えていき、山に関心をもってもらおう。学生さんが参加したらボランティア参加証明書を発行し就職時に役立ててもらおう。	
		会員の減少	参加費を徴収してお昼ごはんを出すのも楽しんで継続するには良いかもと思う。	
		会員の減少	ボランティア団体だけでは広がりがないのでSDGsに登録している県内の企業と連携して様々な視点から活動の参加を促す。	
3	自然環境ネットながさき 奥村さん	会の継続	団体の高齢化が問題となっているが意外にも40・50代の集まった団体や、下は小学生から上は70代まで所属する団体もあった。年齢層の幅広い団体にメンバー獲得のコツを聞くと、小中学校の課外活動に呼ばれた際に興味を持ってもらい団体と繋がったり、親子で参加するようなイベントを開催したり、地域行事に参加して知名度をあげたり、学校や地域を巻き込んでいく活動をしていった。継続のための資金源として会費を集めている団体も多く、活動保険に充てたり昼ご飯を出したりしていた。また、多面的事業の交付金で薪割機やチップperを購入し、薪にしたり枝はチップper機にかけて林内や作業道に撒くなど、補助金を上手に活用している。	資源活用について ＞多面的事業でも昨年度から資源活用までが交付金の対象となったので林野庁としてはボランティア団体も資源を活用して活動を継続してくださいという流れになってきており資源活用の出口を見つけて活用する団体も多くなっている。また、会費をとる考え方はとても良い。理由としてはお金を払ってでも行きたい活動で活動内容が充実し魅力がある。間伐材などを利用して製品にする話は皆さんで出来そうなのでいろんな団体と話してみてほしい。
		資源の活用	無煙炭火器でポーラス竹炭を作り道ノ尾駅で販売。ペンギン水族館と連携して中学生と竹の漁礁を作る取組など。企業やPTAからは間伐材で子供に何か出来ないかと問い合わせがある為、木育などの講座で工作に使える間伐材があれば資源循環的な話も絡めてできそうなので、間伐材バックのような物を作って連携してくれる所がないかと思っている。	

4	DIYdeSDGs 菅沼さん	会の継続と減少 について	若者が集まらない問題として、まず森林ボランティア団体の活動日は定年退職者が主な場合が多いので平日が多く現役世代が仕事の日と被ってしまう事が挙げられる。新しい人を入れたい場合も友人知人に声掛けしているが日程調整がうまくいかない。ではどうやって人数を確保していくのかというところで我々の活動を広く知ってもらう事が必要かなと思っている。例えば県にマッチングコーディネーターをしてもらい、森林ボランティア活動について問い合わせがきたら近くの地区で活動している森林ボランティア団体を紹介してもらおう等だろう。若者、とかく子供世代にもボランティア活動に参加してほしいところだが我々がしているような本格的な木を伐る活動は足場も悪く危険なので子供たち相手の時は遊びの要素を加えると参加率も上がるのではないかな。例えば竹林整備の場合は竹でコップを作ったり、作り方も伝えてあげると森に興味も沸くかもしれない。	活動の継続と会員の減少 >ボランティア活動の周知については皆さんにお配りしている「活動レポート」を活用してください。これをお手本に内容と当日の活動写真を撮ってセンターにメールで送ってもらえればセンターのインスタなどに掲載します。マッチングに関してはセンターで行っており、県へ一般の方から問い合わせが入ってもセンターへ引き継がれます。それから子供のボランティア活動に遊びの要素が必要だというのは大人でも必要で30分から1時間位遊びを入れた活動をするると新しい人もついてくるのかもしれない。長く森林ボランティア活動をしていると森林整備に夢中になって働いて疲れて帰るという事を繰り返すので皆でもう少し楽しんで出来るといいのかなと思っています。
5	ながさき楽しみ の森づくり会 中村さん	活動の継続 会員の減少 安全管理 活動の継続 活動の継続	これが一番皆さんに共通している問題だと思うので取り上げた。自分としては活動の計画化を事前に明確にしておく事が大事ではないかと考えている。我々の会は、前活動日に次の予定を話していても皆忘れていて結局は活動当日の朝にすることを決めているので、年配者の多い会の難点かなと思っている。これを防ぐ対処法として事前に当日の活動内容をライングループなどで共有し周知していく。また、役割を明確化して役割分担することで作業の見える化が図れる。 次世代を担う子供達をいかに活動の中に抱きこんでいくのかについては森林ボランティアをしている大人達の課題だが、自分たちの会では毎年インターネットで参加者を募り春に植栽を行っている。この活動の中でもご家族、子供さん達もいるので先々の人材育成の手だてにしたい。そのためには子供たちに作業に興味をもってもらわないといけない事が課題だが、先程団体さんが仰った遊びの要素を入れていく事を参考にして活用していきたいと思う。 安全に対する取組は現在は定期的にビデオを視聴しているが今後は外部の方にきていただいて講習してもらう方法をとりたい。環境が変わる事で安全に対する意識付けも強く出来るのではないかなと思っている。 作業に使用する道具について便利な物、新しい物、逆に昔の道具の方が使いやすいなど皆で知恵を出し合って工夫して楽しく作業する事も会のモチベーションアップには必要ではないだろうか。 春の季節は整備作業後に採った、タケノコを湯がいて持って帰らせる→お土産をつけるというのも活動の一つの楽しみになるのでこれからも続けていきたい。	役割分担についてはよく話に出てきますが分担しないと代表者に負担がかかるので会の中で安全管理、連絡担当、広報担当を決めると公平に会を運営できて良いと思います。全国的にみても森林ボランティア活動は浸透してきており、良い団体は役割分担がきっちりしており、逆に役割分担をしない団体は代表者のみが頑張ってしまう傾向があるので団体の継続自体が難しくなる。明日からでも役割分担をはじめてみてください。次に作業の明確化ですが代表者の方と主力の整備担当の方のみ分かっている場合が多く、自分が何をするのかわかっていない方も多いと聞きます。センターでは親方マッチングと題したイベントを先日開催したマンツーマン指導で初心者に教えるシステムが功を奏して親方役の森林ボランティアの方も新たな気持ちで作業と向き合えたとの声もあり今後開催していく。安全管理について外部の方に講習してもらう案は講師を担当する人にとってもスキルアップするし面白い試みだと思いました。

作成：長崎県森林ボランティア支援センター